

「竹久夢二 時代を創る表現者」

2026 年 10 月開催決定！

最高傑作《黒船屋》も約 40 年ぶりに展覧会に出品

東京国立近代美術館（東京・竹橋）では、2026 年 10 月 23 日（金）から 2027 年 1 月 11 日（月・祝）まで、「竹久夢二 時代を創る表現者」を開催します。

竹久夢二（1884-1934）は、画家、詩人、ジャーナリスト、デザイナー、イラストレーターなど、いくつもの顔をもつ表現者として、明治の終わりから昭和のはじめにかけて活躍しました。「夢二式」と呼ばれた女性像や、レトロモダンなデザインによって、大正ロマンを象徴する人物として知られています。

田舎への郷愁と都会の洗練を行き来しながら、江戸の面影や異国への憧れとともに、同時代の風俗を描き出した夢二の作品は、雑誌や絵葉書、展覧会などを通して広く大衆に流布し、一世を風靡しました。また、暮らしを彩る日用品のデザイン、子どものための本や雑誌作り、流行歌「宵待草」の作詞、関東大震災を記録したスケッチと言葉など、その仕事の同時代や後世への影響は計り知れません。

本展覧会は、夢二の代表作として名高い《黒船屋》をはじめ、日本画や油彩画、スケッチ、多種多様なデザイン、スクラップブックなど、全国各地の夢二コレクションの作品を一堂に集めることで、その多岐にわたる仕事に迫ります。「美術」という枠を超えて、時代を捉え、流行を生み、人々に愛された表現者、夢二にご注目ください。

★夢二の最高傑作《黒船屋》、約 40 年ぶりに展覧会に出品

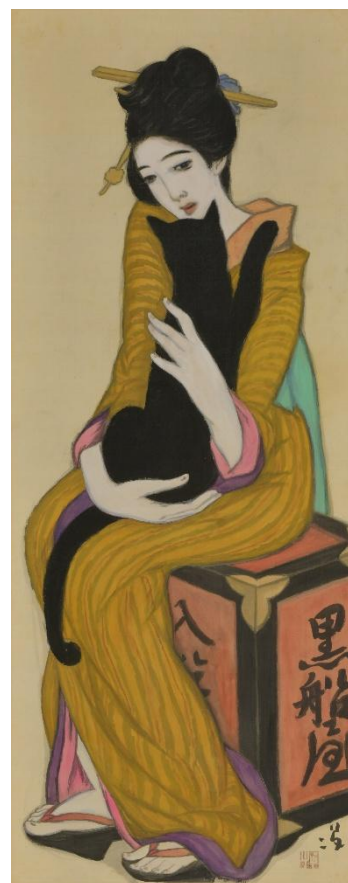
夢二の最高傑作とも称される《黒船屋》は、作家の円熟期の作品です。黄八丈の着物をまとい、黒猫を腕に抱いて、「黒船屋」と書かれた木箱に腰かけた女性が、おおらかな曲線と鮮やかな色彩で描かれています。夢二は、日本の浮世絵と西洋の近代絵画のエッセンスを融合させることで、抒情的でありながらも、斬新で際立ったイメージを創り出しました。

本作品を所蔵する竹久夢二伊香保記念館の協力により、およそ 40 年ぶりに展覧会に出品されます。

開催概要

- 〔展覧会名〕 竹久夢二 時代を創る表現者
〔会 期〕 2026 年 10 月 23 日（金）～2027 年 1 月 11 日（月・祝）
〔会 場〕 東京国立近代美術館（〒102-8322 千代田区北の丸公園 3-1）
〔主 催〕 東京国立近代美術館、毎日新聞社

※本展は、東京会場を第 1 会場として、以降、静岡市美術館（2027/1/23～3/28）、大阪中之島美術館（2028 年予定）ほかを巡回する予定です。



竹久夢二《黒船屋》
1919（大正 8）年
竹久夢二伊香保記念館

— 本件に関するお問い合わせ —

「竹久夢二展」広報事務局（共同 PR 内）担当：三井

E-mail. takehisa.yumeji.exhibit-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F